

## 巻頭言 「産業理工学部・研究科における教育・研究の国際化」

政府主導で日本の大学の国際化を推進すべくグローバル30「国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）」が平成22年度に始動した。外国人留学生に魅力的な教育を提供し、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できるわが国の人材を養成することを目指して様々な取り組みが行われている。特に、グローバル30に採択された13大学では、「英語による授業等の実施体制の構築」「留学生受入れに関する体制の整備」「戦略的な国際連携の推進」など、国際化の拠点としての総合的な体制整備を図り、「産業界との連携」「拠点大学間のネットワーク化の推進、資源や成果の共有」など、多彩な取り組みが実践されている。この13大学には7つの国立大学に加えて、慶応大学、早稲田大学、上智大学、明治大学、同志社大学、立命館大学が含まれている。

近畿大学においても教育・研究の国際化が強力かつ急速に推進されており、大学間での学術交流協定、交換留学、語学研修、短期研修、海外研修ツアー「未来をひらく旅」、21世紀を生きる国際交流セミナー等多様なプログラムが実施されている。学術交流協定締結は2013年7大学、2014年36大学（前年比501%）、2015年51大学（同142%）、交換留学は2013年118名、2014年178名（前年比151%）、2015年156名（同86%）、短期受け入れ学生数は2013年64名、2014年189名（前年比295%）、2015年235名（同124%）となっており、近畿大学は世界40カ国・地域の186大学・機関と協定を結び、世界17カ国・地域から300名を超える留学生が学ぶ国際色豊かな大学となっている。

産業理工学部でも虎尾科技大学（台湾）、東西大学（韓国）、湖南大学校工科大学（韓国）、タイゲン大学（ベトナム）と学術交流協定を結び、虎尾科技大学からは毎年10名前後の科目等履修生を受け入れ、20名前後を虎尾科技大学への短期インターシップに派遣している。受け入れた留学生に対しては、日頃の学業、生活指導に加えて、国際交流カフェを毎月1回開催して留学生と日本人学生との交流の場を持つなどの支援を行っている。また、2016年6月、創立50周年記念行事として国際交流シンポジウムが開催され、タイゲン農林大学タオ博士らの講演やパネルディスカッションが行われた。また、近畿大学教育改革・学生支援プロジェクトの助成を受けて近大インターナショナルサイエンスコースと題した短期プログラムを2017年2月1日・9日に実施した。台湾、中国、タイ、ベトナム、インドネシアから28名が参加して、専門コースプログラム、日本語講義、工場見学等を通して、産業理工学部の内容を紹介し、教員、在学生との交流を行った。同プログラムには当初の20名の募集に対して60名近い応募があり、参加者の中から2名はすでに産業理工学部を受験する意志を示している。アジア諸国の学生の日本留学に対する強い熱意を感じるとともに、留学に向けての経済的基盤や各国政府の支援体制も整って来ていることを実感した。現在、産業理工学部には8名、同大学院に1名が正規入学し、科目等履修生6名が学んでいる。また、インドネシアから2名が2017年4月に大学院博士後期課程に入学する予定となっている。

産業理工学研究科では、他研究科に先駆けて留学生向けの英語による大学院入試実施要項や一連の入学試験出願書式が整い、スカイプを利用して面接試験を実施して合格者を出している。研究科紹介英語リーフレット、英語版研究者紹介の冊子を作成し、英語ホームページも開設しており、留学生受け入れの環境整備は進んでいる。今後、日本学生支援機構の実施している日本留学フェアへの参加、現地日本語学校等との連携、各大学との交流・連携強化を推進して、留学生への広報を強化すれば、東南アジア諸国から相当数の入学者が見込まれる。アジア諸国から留学生を受け入れることが産業理工学部・研究科の特徴の一つになると同時に、在学生にとっても大きな刺激となり、グローバル人材の育成及び国際貢献にも寄与すると期待できる。

近畿大学大学院産業理工学研究科

研究科長 藤井 政幸